

「チーム」

真夏日続きの猛暑の夏が終わり、一雨ごとに秋が深まるなか、この広報誌が発行される頃には、すでに平成二十四年度も七ヶ月が経過していることになりました。例年思うことですが、こうして改めて振り返りますと時の速さを痛感させられております。

さて、今年度方針の柱を「管理者を中核とした人材育成」として、個々の育成とともにリーダーの存在とチームケアの重要性を問い直している日々です。この間、取り組みを進めているなかで、経営者の父と呼ばれ、マネジメント論の提唱者であるP・Fドラッグの本を今更ながら手にすることが多くなりました。(まだまだマネジメント論を語るほど自らの身になっていないのが現実ですが...)。

ドラッグは、チームワークを「野球型」「サッカー型」「テニスのダブルス型」の三つのタイプに分類しています。この三つの類型に共通して言える事は、それぞれチームに属するメンバーがお互いの役割を持ちつつ、他のメンバーの機能を補填していくことで、チームが機能するという事です。つまり、個々の役割と横の繋がりによってチームが機能すると、いう私なりの解釈をしています。



管理者 渡辺 康弘

職員数が多い事業所(介護老人福祉施設)という特性から、野球チームで例えますと、ポジション、打順は固定されていますが、守備で言えば相手によって柔軟に守備位置を変えチーム全員で一つのアウトを取りに行く、攻撃で言えば次の打者につなぎ一点を取りに行く、ランナーは相手のピッチャーを牽制することで、打者を助ける等が必要になります。そしてそれを指揮する監督とコーチの存在です。

プロ野球界では、昨年より統一球が導入され、飛距離が伸びないことにそれぞれのチームが苦しめられたことは記憶に新しいところです。今年、Vを奪回したジャイアンツは、監督の指示のもと、投手力という特徴を活かし、メンバーがそれぞれ独自の目的を認識し、個人プレーではなく、つなぐ野球に徹して一点を取りに行く形にこだわったことが、勝因だったと思っております。

監督(施設長)がミッション・ビジョンを示し、コーチ(管理者)が指揮し、メンバー(それぞれの職種)が目的(ケアの共通目的)を認識し、協働で優勝(方針達成)という目標に向かって取り組む。チームという意味で、我々が目指すところも同じです。

特別養護老人ホーム よねやまの里

TEL 025-536-4400

FAX 025-536-4405

受付時間 9:00~18:00

責任者 吉澤 善明

担当者 相談員 原田 浩成

その他 18:00以降も特別養護老人ホームよねやまの里で受け付けます。

新潟県国民健康保険 団体連合会介護保険課

介護サービス相談室専用TEL

025-285-3022

上越市役所高齢者支援課

TEL 025-526-5111
(内線1158)

柿崎区総合事務所

TEL 025-536-6704

苦情受付窓口



皆様からの『ご意見・ご要望・苦情・相談』を受け付けております。サービスをご利用いただく中で、何かお気づきの点がございましたらご遠慮なく各事業所までお申し出下さい。

皆様からの貴重なご意見が「今後のサービスの質の向上・維持」への重要な役割を担うものとして、ご利用者の皆様に十分理解していただけるよう迅速かつ適切な対応に努めてまいります。